

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 16 日 (2005.6.16)

【公開番号】特開 2003-136565 (P2003-136565A)

【公開日】平成 15 年 5 月 14 日 (2003.5.14)

【出願番号】特願 2001-336021 (P2001-336021)

【国際特許分類第 7 版】

B 2 9 C 45/42

【F I】

B 2 9 C 45/42

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 9 月 13 日 (2004.9.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

上記した X 軸駆動部材 2 5、Y 軸駆動部材 2 9 及び Z 軸駆動部材 3 5 を駆動制御する制御ドライバー（図示せず）を収容するドライバーボックス 3 7 は本体フレーム 1 9 における長手方向の一方端部または走行体 2 3 上に取り付けられる。図はドライバーボックス 3 7 を走行体 2 3 上に取り付けた状態を示す。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

伸縮機構 4 5 としては、図 2 に示すように多数のパンタアーム 4 5 a を X 字形に連続するように連結したパンタグラフ機構からなり、その基端部にはボール状の軸支部材 4 5 b が、本体フレーム 1 9 の基台部 1 9 a に設けられた軸受部 1 9 b に対して回転自在に支持される。また、伸縮機構 4 5 の先端部にはボール状の軸支部材 4 5 c が、操作ボックス 4 3 を取り付けするための取り付け板 4 7 に設けられた軸受部 4 5 d に対して回転自在に支持される。伸縮機構 4 5 の先端部に設けられた操作ボックス 4 3 と制御ボックスとは、例えばカールコード状の信号ケーブル 4 9 により接続される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

また、操作ボックス 4 3 と制御ボックスとを接続する信号ケーブル 4 9 がカールコード状からなるため、信号ケーブル 4 9 自体が伸縮機構 4 5 の伸長状態に応じて伸長して弛みが生じて垂れ下がることがなく、樹脂成形機 1 や成型品取出機 1 7 における他の部材に引っ掛かるのを防止する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 7 】

4 . 上記した何れの場合においても、制御ボックスと操作ボックス 4 3 とを接続する信号ケーブル 4 9 を、図 5 に示す場合にあっては取り付け側ロッド 5 3、アーム 5 5 a・5 5 b 内に、図 7 に示す場合にあっては取り付け用ロッド 6 3、中間ロッド 6 5、先端側ロッド 6 9 内に、図 9 に示す場合にあっては伸縮円筒部材 7 3 における各円筒単位部材 7 3 a 内に夫々収容することにより信号ケーブル 4 9 が露出するのを防止して信号ケーブル 4 9 が樹脂成形機 1 及び成型品取出機 1 7 における他の部材に接触したり、引っ掛かったりするのを回避することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

